



2023年3月期第1四半期 決算説明会



2022年7月26日
株式会社トプコン
取締役兼常務執行役員
CFO 財務本部長
秋山 治彦



会社紹介
ビデオ

Topcon for Human Life

株式会社トプコン

2023 年 3 月期第 1 四半期 決算説明会

2022 年 7 月 26 日

イベント概要

[企業名] 株式会社トプコン

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2023 年 3 月期第 1 四半期 決算説明会

[決算期] 2023 年 3 月期

[日程] 2022 年 7 月 26 日

[時間] 15:30 -16:15

(合計 : 45 分、登壇 : 20 分、質疑応答 : 25 分)

[開催方式] オンライン開催 (ライブ配信)

[登壇者] 2 名

取締役 常務執行役員 財務本部長 秋山 治彦

執行役員 広報・IR 室長 平山 貴昭

2023年3月期第1四半期 決算説明会

I. 2023年3月期第1四半期 決算報告

II. 2023年3月期 通期見通し

III. トピックス

IV. まとめ

V. 参考資料

2023年3月期第1四半期の決算報告、2023年3月期の通期見通し、トピックス、まとめの順でご報告します。

I . 2023年3月期第1四半期 決算報告

I-1. 2023年3月期第1四半期 決算報告

I-2. 事業別の状況

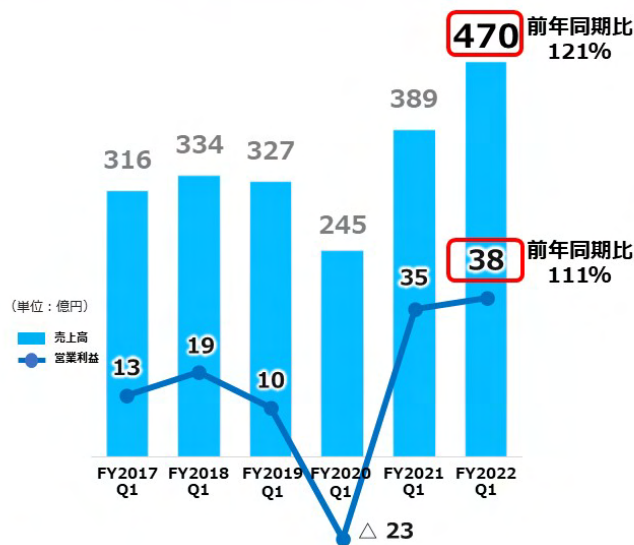


©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 3

まずは 2023 年 3 月期第 1 四半期の決算報告です。

FY2022 Q1決算概要



■増収増益

売上高・利益 Q1過去最高

- 欧米を中心に堅調な需要が継続
- 部材不足、部材・物流費高騰の影響が顕在化 (前年同期は僅少)
- 利益はコロナ前を上回る水準に増加



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 4

2023年3月期第1四半期の決算概要です。増収増益となりました。売上高・営業利益とも、第1四半期としては過去最高となります。

まず、欧米を中心に堅調な需要が継続しています。スライドの棒グラフは売上高を示していますが、前年同期比121パーセントで大幅に増収となっています。

2点目に、前年同期は、部材・物流費の高騰はほとんどなかったのに対して、今年度は部材不足、部材・物流費高騰の影響が大きく顕在化しました。その結果、先ほどの売上の増加に比べて、営業利益の増加はそれほど大きくありません。

3点目に、営業利益が新型コロナウイルス前を上回る水準となっています。スライドは過去6年の第1四半期の推移を示したグラフです。折れ線グラフが営業利益ですが、2020年度第1四半期は特殊要因である新型コロナウイルスの影響で大きく落ちました。コロナ禍前の3年間にはだいたい10億円台だった営業利益に対して、今年度と前年度は30億円台となっており、営業利益の水準がワンランク上がっています。

FY2022 Q1実績

■ 売上高・利益 Q1過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	Q1実績	Q1実績	前年同期比	前年同期比%
売上高	38,898	47,018	8,120	+21%
売上総利益 (売上総利益率)	20,331 (52.3%)	24,831 (52.8%)	4,500	
販管費	16,872	20,997	4,124	
営業利益 (営業利益率)	3,458 (8.9%)	3,834 (8.2%)	375	+11%
営業外損益	△250	158	409	
経常利益	3,208	3,993	784	+24%
特別損益	0	0	0	
税引前利益	3,208	3,993	784	
四半期純利益	1,823	2,790	967	+53%
為替 換算レート (期中平均)	USD EUR	110.00 円 131.78 円	129.04 円 138.24 円	19.04 円 6.46 円



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 5

P/Lの詳細です。売上は先ほどご説明したとおりですが、売上総利益率は前年度とほぼ同じ 52.8 パーセントとなりました。販管費が前年同期から 41 億 2,400 万円増えていますが、社内の計画どおりです。

営業利益率は 8.2 パーセントです。営業外損益は、通常では営業外費用が出ますが、今年度は特に期末から 6 月末にかけて大きく円安に動いたことによって為替影響がプラス方向に出ています。

経常利益は 39 億 9,300 万円で、24 パーセントの増加となりました。当期純利益が 27 億 9,000 万円で、前年度から約 1.5 倍となりました。

FY2022 Q1事業別実績

■ 全事業で増収

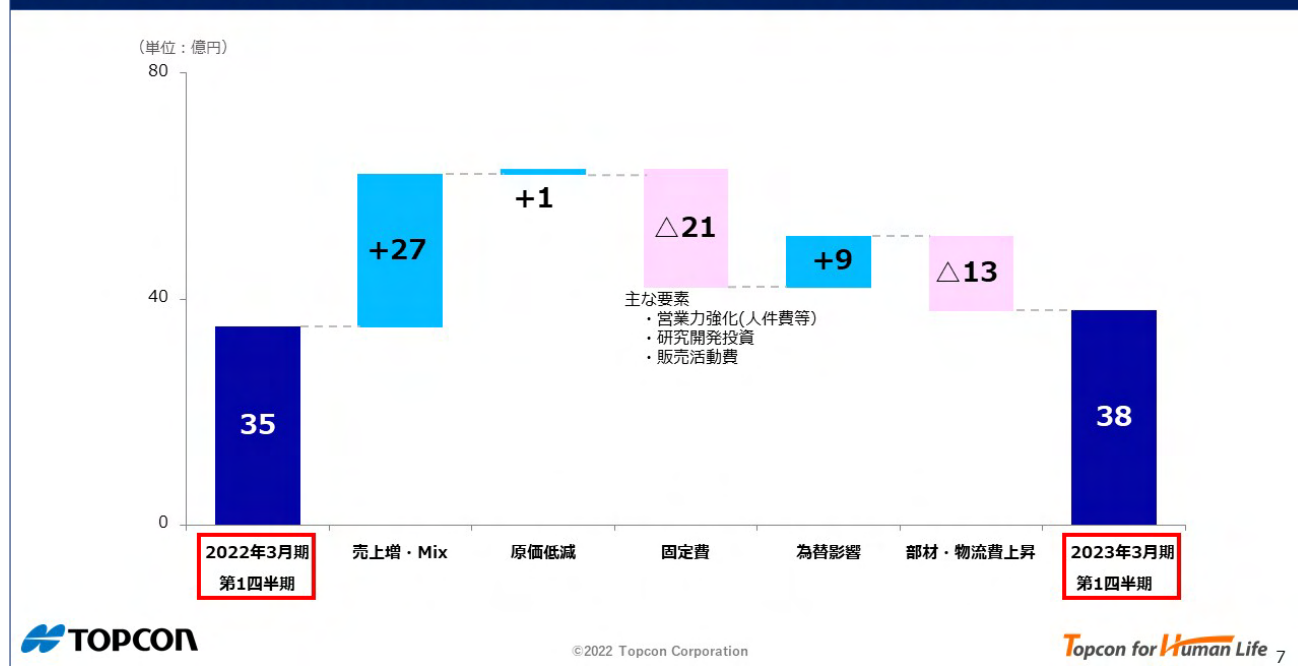
(単位：百万円)

		FY2021	FY2022		
		Q1実績	Q1実績	前年同期比	前年同期比%
売上高	ポジショニング	22,645	27,314	4,669	+21%
	スマートインフラ	8,700	9,862	1,162	+13%
	アイケア	11,398	14,051	2,653	+23%
	その他	275	261	△14	
	消去	△4,122	△4,470	△347	
	合計	38,898	47,018	8,120	+21%
営業利益 (営業利益率)	ポジショニング	3,061 (13.5%)	2,864 (10.5%)	△196	△6%
	スマートインフラ	1,287 (14.8%)	1,607 (16.3%)	320	+25%
	アイケア	233 (2.1%)	559 (4.0%)	325	+139%
	その他	△89	△104	△15	
	調整	△1,034	△1,093	△59	
	合計	3,458 (8.9%)	3,834 (8.2%)	375	+11%

6

セグメント別の売上と営業利益については、後ほど詳細をご説明します。

FY2022 Q1累計増減益分析（営業利益ベース:前年同期比）



第1四半期の営業利益の増減益分析です。前年同期 35 億円に対して当年度は 38 億円で、3 億円の増益となった内訳についてご説明します。

売上の増加および売上構成差で 27 億円のプラスとなりました。

固定費は前年同期比で 21 億円の増加となっています。主な要素としては、1 点目に事業拡大に伴う人員増強、2 点目は研究開発投資、3 点目に業績拡大に伴う販売活動費の増加となっています。

為替の影響はプラス 9 億円でした。

最後に部材・物流費高騰の影響を特殊要因として個別に開示します。

前年同期はほぼこの影響がゼロでしたので、当年度は△13 億円と利益の大きな下押し要因となっています。

I . 2023年3月期第1四半期 決算報告

I-1. 2023年3月期第1四半期 決算報告

I-2. 事業別の状況



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 8

次に事業別の状況をご説明いたします。

■ Q1売上高過去最高も減益

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	Q1実績	Q1実績	前年同期比	%
売上高	22,645	27,314	4,669	+21%
営業利益 (営業利益率)	3,061 (13.5%)	2,864 (10.5%)	△196	△6%
為替 換算レート (期中平均)	USD 110.00 円	129.04 円	19.04 円	
	EUR 131.78 円	138.24 円	6.46 円	

業績要因分析

全般

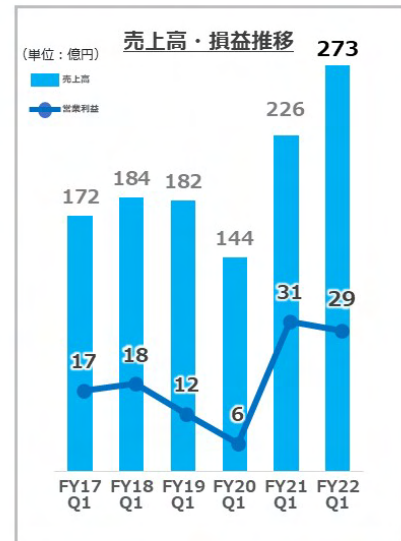
- 部材不足による出荷遅延拡大も、欧米での堅調な需要継続で増収
- 部材・物流費高騰の影響顕在化
- 利益はコロナ前を上回る水準に増加

ICT自動化施工・IT農業

- アフターマーケット・OEM共に販売好調継続

測量機・レーザー機器

- 部材不足の影響も、高水準の販売を維持



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 9

まずはポジショニング事業です。売上高は前年同期比プラス 46 億 6,900 万円、プラス 21 パーセントと大幅に増収となっています。一方で、営業利益は 1 億 9,600 万円ほど減益という結果になりました。

売上については、部材不足による出荷遅延が拡大しているにも関わらず、欧米での需要が堅調なため、結果として伸長しました。利益については、部材・物流費高騰の顕在化が、ポジショニング事業については大きなマイナス要因となっています。

但し、営業利益額は、コロナ禍前の 10 億円台の営業利益に対して、前年度・今年度は 30 億円前後とコロナ禍前を大きく上回る水準となっています。

主力の ICT 自動化施工・IT 農業は、アフターマーケット・OEM とともに販売が好調。測量機・レーザー機器関係も、部材不足の影響は受けたものの、高水準の販売を維持しています。

■ Q1売上高・営業利益過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	Q1実績	Q1実績	前年同期比	%
売上高	8,700	9,862	1,161	+13%
営業利益 (営業利益率)	1,287 (14.8%)	1,607 (16.3%)	320	+25%
為替 換算レート (期中平均)	USD 110.00 円	129.04 円	19.04 円	
	EUR 131.78 円	138.24 円	6.46 円	

業績要因分析

全般

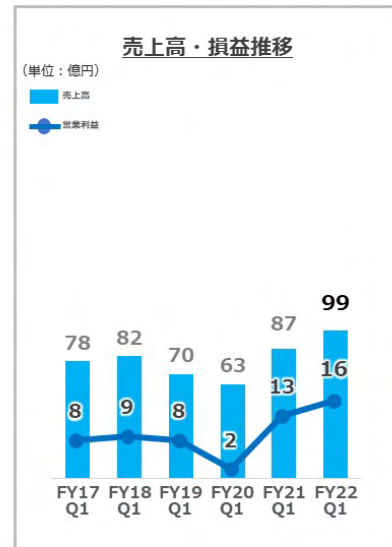
- 国内向け販売堅調、東南アジア・インド向け復調
- 部材不足、部材高騰の影響顕在化

測量機

- トータルステーションの好調な需要継続

ICT自動化施工・IT農業

- 中小型建機・農機向けシステム受注好調も、部材不足で出荷遅延継続



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 10

次はスマートインフラ事業です。売上が前年同期から 13 パーセントの増収、営業利益は 25 パーセントの増益となりました。

主な要因は、日本国内の販売が堅調に推移したことに加え、これまで低調だった東南アジア・インド向けが復調してきたことで、増収となりました。他のセグメント同様、部材不足、部材高騰の影響が顕在化しました。

主力の測量機は、トータルステーションの需要が引き続き好調です。

また、国内の ICT 自動化施工・IT 農業は、中小型建機向けマシンガイダンスシステム「杭ナビシヨベル」と、昨年 11 月発売した廉価版自動操舵システムを中心に受注は好調です。但し、部材不足の影響で出荷遅延が一部発生しています。

グラフをご覧のとおり、スマートインフラ事業は安定した事業で、第 1 四半期は 16.3 パーセントと高水準の営業利益率を達成しています。

事業別の状況

アイケア

■ Q1売上高過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	Q1実績	Q1実績	前年同期比	%
売上高	11,398	14,051	2,653	+23%
営業利益 (営業利益率)	233 (2.1%)	559 (4.0%)	325	+139%
為替 換算レート (期中平均)	USD 110.00 円	129.04 円	19.04 円	
	EUR 131.78 円	138.24 円	6.46 円	

業績要因分析

全般

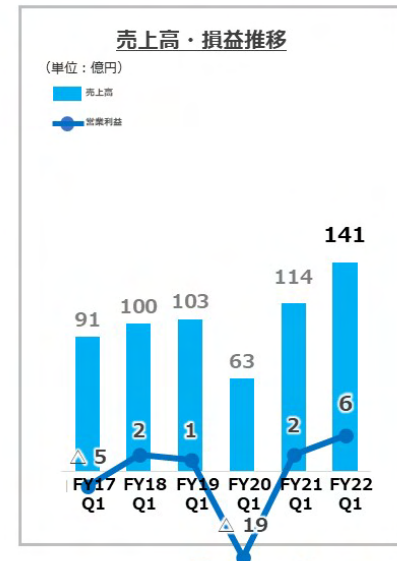
- 部材不足による出荷遅延拡大も、欧米向け好調な販売により大幅増収
- 部材・物流費高騰の影響顕在化
- 中国向けは上海ロックダウンの影響で一時的な販売減

スクリーニングビジネス

- Maestro/NW400を中心に欧米大手眼鏡チェーン店向け好調な販売継続

デジタル検眼システム

- 欧米大手眼鏡チェーン店向け堅調な販売継続



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 11

アイケアの状況です。売上高は前年同期比プラス 23 パーセント、営業利益は前年同期比約 2.4 倍となりました。

主な要因としては、部材不足による出荷遅延の影響は拡大しましたが、特に欧米向けの好調な販売によって、大幅増収を達成しました。一方、部材・物流費高騰の顕在化、中国ロックダウン影響による一時的な販売減も見られました。

注力しているスクリーニングビジネスおよびデジタル検眼システムは、どちらも欧米大手眼鏡チェーン店向けの販売が、引き続き好調に推移しています。

グラフをご覧の通り、売上高は新型コロナ影響を受けた 2019 年度以降順調に伸長しています。他のセグメントと比べると、営業利益額はまだ小さいですが、今年度の営業利益 6 億円には、部材・物流費高騰のマイナス影響が入っています。したがって、以前に比べアイケア事業は利益を稼げる体質になってきたと言えます。

Ⅱ．2023年3月期 通期見通し



©2022 Topcon Corporation

Topcon for *Human Life* 12

通期の業績見通しについてご説明します。

FY2022 通期見通し

■ 期初計画から変更なし

(単位: 百万円)

	FY2021	FY2022		
	通期実績	通期見通し	前年度比	第三次中計
売上高	176,421	190,000	+8%	180,000
営業利益 (営業利益率)	15,914 (9.0%)	18,000 (9.5%)	+13%	20,000 (11.1%)
経常利益	14,820	17,000	+15%	-
純利益	10,699	12,000	+12%	-
ROE	14.0%	14%		13~15%
配当	36円	40円	+4円	-
配当性向	35%	35%		35%以上
為替換算レート (期中平均)	USD EUR	112.86 円 131.01 円	120 円 130 円	110円 125円

Q2以降の前提レート



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 13

2022 年度の通期見通しは、前回 2021 年度の決算発表の際に公表した数字から、変更しません。

具体的には、売上高は 1,900 億円で前年度比 8 パーセントの増収、営業利益は 180 億円で前年度比 13 パーセントの増益、当期純利益は 120 億円で 12 パーセントの増益、ROE は 14 パーセント、配当は 4 円増配の 40 円という計画です。

FY2022 通期見通し（事業別）

（単位：百万円）

		FY2021	FY2022		
		通期実績	通期見通し	前年度比	第三次中計
売上高	ポジショニング	96,692	106,000	+10%	93,000
	スマートインフラ	39,040	42,000	+8%	43,000
	アイケア	57,352	62,000	+8%	62,000
	その他	1,184	1,000		1,000
	消去	△17,848	△21,000		△19,000
	合計	176,421	190,000	+8%	180,000
営業利益 (営業利益率)	ポジショニング	11,548 (11.9%)	13,000 (12.3%)	+13%	-
	スマートインフラ	5,821 (14.9%)	5,000 (11.9%)	△14%	-
	アイケア	3,203 (5.6%)	4,500 (7.3%)	+40%	-
	その他	△365	△300		-
	調整	△4,293	△4,200		
	合計	15,914 (9.0%)	18,000 (9.5%)	+13%	20,000



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 14

セグメント別の売上高と営業利益も、当初の計画から変更はありません。

Ⅲ. トピックス



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 15

各セグメントで1つずつトピックスをご紹介します。

米国インフラ投資増による道路舗装・メンテナンス需要の取り込み

ポジショニング

米国インフラ投資雇用法 (2021年11月成立)

- ✓インフラ関連 予算規模 総額約1.1兆ドル
- ✓今後8年間にわたり公共工事の増加に期待

公共工事の例



当社の強み 舗装工事の工場化

全ての工程をカバーする
当社ソリューション



今後の 売上貢献に期待

舗装工事向け売上見通し
(金額)



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 16

まずポジショニング事業について。米国では金利上昇に伴って住宅着工件数が少し落ちてきていますが、一方で昨年11月に成立した「インフラ投資雇用法」により、インフラ建設関連で約1.1兆ドル、130兆円から140兆円の予算がすでに確定しています。

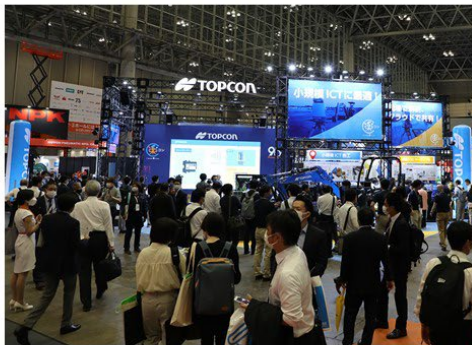
これが今後8年間にわたって公共事業に投資され、橋梁や道路建設、空港や鉄道建設などのインフラプロジェクト向けの需要が期待出来ます。

インフラ工事の一例をご紹介します。当社は、舗装工事分野における精密な計測技術や建機の自動化システムを提供可能です。また、舗装工事プロセス全体のデータを一元管理することで舗装工事全体の効率を高めるソリューションを持っているという強みがあります。これにより今年度以降、舗装工事向けの売上を伸ばさせていく計画です。

■ 建設・測量生産性向上展（CSPI-EXPO）でのタイアップ展示大成功

第4回「CSPI-EXPO 2022」

開催地：幕張メッセ
日程：2022年5月25日～27日
来場者数：4万人超



当社ブースの様子



販売好調な杭ナビショベル*
多数の建機メーカー・レンタル会社が自社ブースに展示

* ICTマシンガイダンスシステム



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 17

続いてスマートインフラ事業のトピックスです。今年5月下旬に幕張メッセで建設・測量生産性向上展が行われました。4万人超の来場者があり、非常に活況でした。

国内 i-Construction 用に好評を博している当社マシンガイダンスシステム「杭ナビショベル」が、この展示会でも来場者の関心を集めました。

当社ブースはもちろんのこと、建機メーカーやレンタル会社のブースでもタイアップ展示を行い、多数の来場者にアピールすることが出来ました。

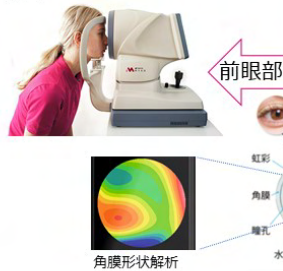
■ VISIA社の製品開発力と当社グローバル販売網により事業伸長

買収後の進捗

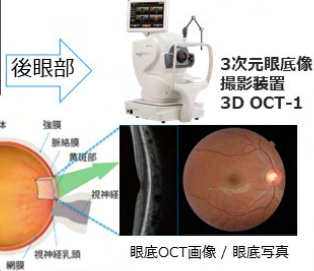
- ・ 欧米大手眼鏡チェーン店向けに販売拡大
- ・ グローバルな開発体制強化(伊・日の技術者による連携)
- ・ 生産能力の増強 (2022年5月工場スペースの拡張)



前眼部検査機器の開発・製造に強み



眼底イメージング機器の開発・製造に強み



※イタリア VISIA Imaging社：2021年7月に買収

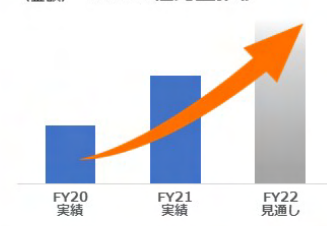


©2022 Topcon Corporation

VISIA社主力製品



(金額) VISIA社売上推移



Topcon for Human Life 18

アイケア事業については、去年7月に100パーセント子会社化したイタリアのVISIA社についてのトピックです。トプコンは後眼部といわれる、網膜等を撮影する眼底カメラやOCTに強いのですが、VISIA社は前眼部の角膜・水晶体などの検査機器に強い会社です。

主力製品の角膜形状および眼軸長を計測する製品や、新しく発売したオートレンズアナライザーの受注が非常に好調で、部材不足の影響を受ける中でも順調に売上が伸長しています。

当社の強い、欧米大手眼鏡チェーン店向け販路を活用し、VISIA社製品の販売も好調です。好調な販売を受け、今年年5月に工場スペースを拡張しました。今後も引き続きVISIA社の売上は大きく伸長していくと考えています。

デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速

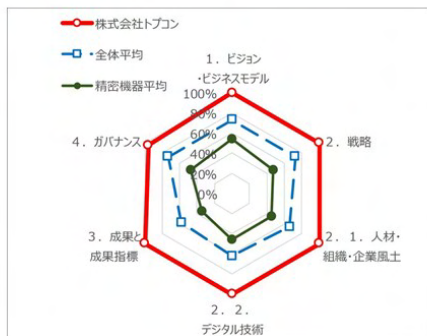


■ 3年連続 経済産業省「DX銘柄 2022」に選定！

(発表日 2022年6月7日)

「医」「食」「住」に関する社会的課題を
DXで解決する当社取り組みが高評価!!

DX銘柄 3年連続受賞



当社総合評価結果 (経産省資料より抜粋)

国内上場企業 約3,700社を対象として、
総合評価点の最も高い企業 33社がDX銘柄に選出

DX銘柄2022選定企業(33社)表彰式



(於：東京証券取引所2階ホール)



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 19

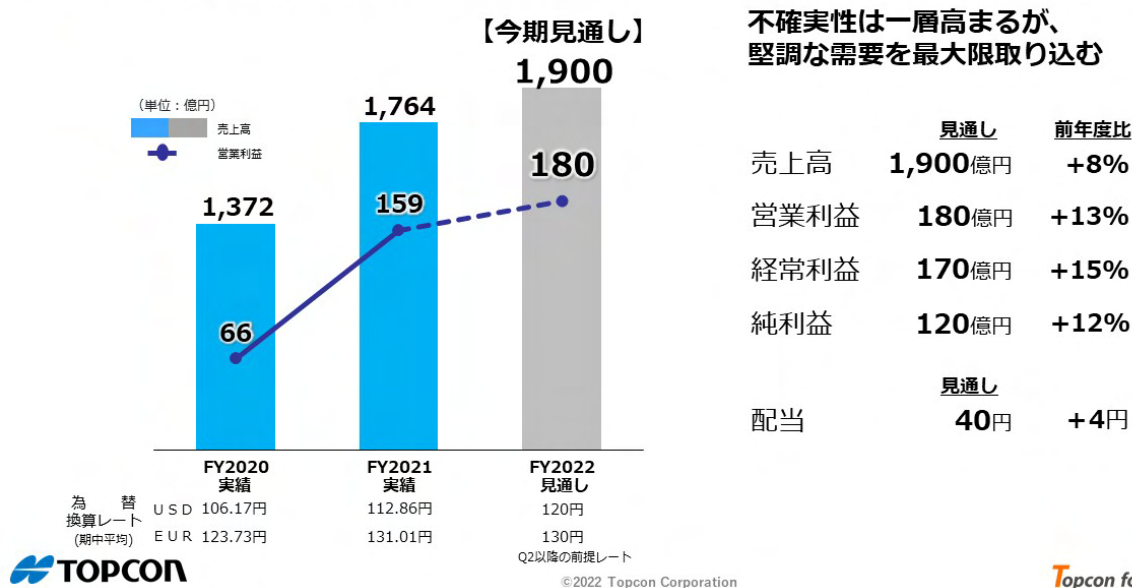
トピックスの最後となりますが、6月に経済産業省の「DX 銘柄」に3年連続で選定されました。スライドの評価テーブルにあるとおり、全項目にわたってほぼ満点に近い点数をいただきました。3年連続の「DX 銘柄」に選定された企業は当社を含め8社のみです。

IV. ま と め

最後にまとめです。

まとめ

■ 期初計画から変更なし



通期の業績見通しは、期初計画から変更はありません。

但し、欧米においてはインフレに伴う金融引き締めにより、景気減速の可能性があります、不確実性は一層高まると見ています。またロシア・ウクライナ問題も長期化していますし、中国ではゼロコロナ政策を継続しています。

不透明感が増しているのは事実ですが、現状、当年度計画は変更いたしません。

以上、第1四半期決算報告、2023年3月期の通期見通しを報告致しました。

ご清聴ありがとうございました。

質疑応答サマリー

<全社共通事項>

Q. 不透明感が高まっているが、足元でモメンタムが変化している事業はあるか？

A. 全事業で受注残が積み上がっており、現時点では景気悪化の影響は出ていない。一方で、部材不足の影響は全く収束しておらず、収束時期もまだ分からない。

Q. 部材・物流費上昇の影響は前回の説明会で言っていた年間で 20-30 億円と比べると、Q1 の進捗が高いように見えるがどうか？

A. 去年は Q2 の後半から影響が出ていたので、対前年比という意味では予定通り、下期は前年比ではあまり影響が出ないと見ている。

Q. 部材・物流費上昇のセグメント別の状況は？

A. ポジショニング・カンパニーが半分程度、残りは基本的にスマートインフラ事業とアイケア事業で半々だが、スマートインフラ事業は物流コストがあまりかかっていないので、その分アイケア事業の方が影響が若干大きい。

Q. 決算短信の地域別の売上数値を見ると、欧州の売上の伸びが弱いように見えるがどうか？

A. 欧州も順調だが、米国がそれ以上に伸びている為に、ウェイトが下がっている。また、ドイツのディスプレイ工場での部材不足で売上に一部影響が出ているが、特に需要が弱いとは考えていない。

Q. 部材不足による仕掛在庫の増加は分かるが、完成品の在庫も急増している。どう理解すれば良いのか？

A. 航空便を使っていた一部の製品で船便を使っており、物流に時間が掛かっていることが影響している。単体では販売会社向けに売上が計上されながら、連結では売上が計上されていない部分も多い。

<ポジショニング・カンパニー>

Q. 売上増のブレイクダウンをして欲しい。為替影響、バックオーダーの影響、値上げについて知りたい。

A. 為替の影響を除くと売上の伸びは 10%弱になる。バックオーダーは現地通貨ベースで 3 月末比で増加している。いつ解消するかは予想は難しいが、Q2 以降減らしては行けると思う。値上げは昨夏に続いて 2 回目を実施しているが、Q1 での効果は限定的。

Q. Q1 は前年無かった部材・物流費上昇の影響で営業減益とのことだが、去年は Q2 以降、部材・物流費上昇の影響でコストのベースが高いので、今後は前年同期比で見て増益傾向に改善すると見ていいか？年度の見通しは 10%増収だが現地通貨ベースだとどの程度の伸長を計画しているのか？

A. そのように見ている。

<スマートインフラ事業>

Q. 受注残は現地通貨ベースではどうなのか？

A. 増加している。

Q. 通期では減益予想となっているが Q1 の数値は良かった。見通しに変化はないか？

A. 人員増強をしていくので、1 年で見ると減益になるという見通しは変わっていない。

<アイケア事業>

Q. 中国ロックダウンの影響で売上が減少した分については、Q2 に計上されてくると考えて良いのか？

A. 中国のロックダウンでは出荷だけではなく、営業活動を含めて影響が全般的に出ってしまった状況で、積み上がった需要が Q2 に直ぐに反映されるという状況ではない。

V. 参考資料

四半期別業績推移

■ 全社



■ ポジショニング・カンパニー



■ スマートインフラ・ビジネス



■ アイケア・ビジネス



年間別業績推移・見通し

■ 全社



■ ポジショニング・カンパニー



■ スマートインフラ・ビジネス

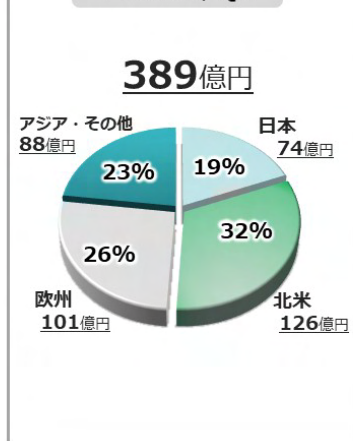


■ アイケア・ビジネス



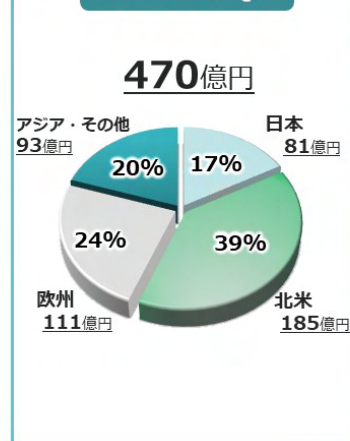
地域別売上高

FY2021/Q1



前年同期比
+21%

FY2022/Q1



設備投資および研究開発費 / 為替感応度

■ 投資額・費用見通し



■ 為替感応度（1円の変動による影響額）

USD：営業利益 1.5～2億円
 EUR：営業利益 0.7～1億円



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 27

メディア活動

■ 日経CNBC「トップに聞く」に当社代表取締役社長 平野 聡が出演しました



約18分の動画で当社の事業・成長戦略について分かりやすく説明しています。
 以下ニュースリリースより動画をご視聴頂けます。



■ ニュースリリース：<https://www.topcon.co.jp/topics/10402/>

■ 日経電子版に記事広告を連載しています



「歴史編」「事業編」「社長メッセージ編」の3部構成からなる記事広告を掲載しています。以下サイトより是非ご覧ください。（社長メッセージ編は9月公開予定）



■ 日本経済新聞ウェブサイト：<https://ps.nikkei.com/topcon2022/vol1.html>



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 28

■ 日本経済新聞ウェブサイト：<https://ps.nikkei.com/topcon2022/vol1.html>

■ ニュースリリース：<https://www.topcon.co.jp/topics/10402/>

- ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/invest/individual/>

個人投資家様向けページリニューアル

- 当社の「グローバルDX戦略」に関する情報を積極的に発信してまいります



■ ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/invest/individual/>

© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 29

SDGsへの取り組み : CO2排出量削減への貢献

- 建機・農機の自動化システムそのものが環境負荷低減に貢献



※1 : 出典: 国土交通省「Construction推進コンソーシアム」
「Constructionの進捗状況」(2019)
https://www.mlit.go.jp/tec/ci/construction/pdf/03_5_kikaku_siryo_000.pdf

※2 : 特定規模
建設会社あたりの年別CO2排出量推定値に、ICT施工の活用による作業時間削減率を乗じた建設1台あたりのCO2排出削減量をもとに、ICT自動化施工機種の全世界での推定稼働台数と当社推定シェアを乗じて計算

※3 : Constructionは、国土交通省国土技術政策総合研究所の登録団体です。

ベンダーニュートラルの強みにより
既存の各社建機・農機を後付けで自動化

自動化の普及拡大で
更なるCO2削減が期待

※3 : 出典: AEM「The Environmental Benefits of Precision Agriculture in the United States」(2020)
<https://newroom.aem.org/assets/977833/environmentalbenefitsprecisionagriculture-en-us-18092020-74.pdf>

※4 : 特定規模
農業用トラクター1台あたりの年別CO2排出量推定値に、オートステアリングシステムの活用による燃料消費率削減率を乗じた農機1台あたりのCO2排出削減量をもとに、オートステアリングシステムによる自動操舵トラクターの全世界での推定稼働台数と当社推定シェアを乗じて計算



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 30

- WIN ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/10361/>
- FTSE ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/9527/>
- 日経 SDGs ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/news/2573/>

非財務情報について

■ サステナビリティ関連の外部評価

2022 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき、多面的に性別多様性スコアを算出し、業種毎に同スコアの高い企業を選別するインデックスへ採用



■ ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/10361/>



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスへ採用



■ ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/9527/>

NIKKEI
SDGs
経営調査 2021 ★★☆☆

第3回日経SDGs経営調査

国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」への取り組みを格付けする調査において2年連続3つ星半を獲得



■ ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/news/2573/>



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 31

非財務情報について

■ コーポレートホームページ上の当社が取り組む社会課題、SDGs等を説明したサステナビリティページ

サステナビリティ
Topcon for Human Life
「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します

トプコンとSDGs
TOPCON & SDGs

SDGsへの取り組み → 国連グローバルコンパクト →

TOPCON

■ ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/>

© 2022 Topcon Corporation

TOPCONの取り組み

環境 (ENVIRONMENT) | 社会 (SOCIAL) | ガバナンス (GOVERNANCE)

サステナビリティ

トプコンは「医・食・住」(ヘルスケア・食・住) (健康・食・住) (インフラストラクチャー) 分野を事業領域としています。これらは世界中の人たちの生活に必須な分野です。

トプコンとSDGs

- 環境に対する取り組み
- 社会に対する取り組み
- ガバナンスに対する取り組み
- 社会貢献活動
- トピックス・ニュース

より多くの人に、健康で快適な日常生活を

誰もが、豊かな暮らしを、受けられる社会を

世界中に、安心して生活できる社会を

Topcon for Human Life 32

- ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/>



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for *Human Life* 33

Topcon for *Human Life*

